

## 【株式相場レポート】

### ～利益確定モード強まる～

	7日終値	前週末比
日経平均(円)	19,929.09	-104.34
ドル(円)	113.72-73	+1.67
NYダウ(ドル)	21,320.04	-29.59
長期金利(%)	0.085	-0.001
NY原油(ドル)	45.52	-0.52

※NYダウ・NY原油は6日終値、ドル・長期金利は7日15時現在

### 今週の総括

#### ★円安、長期金利高で自動車、金融に追い風も持続せず、利益確定売りも強まっている印象

##### 今週のプラス材料

- ・日欧EPA、大枠合意へ
- ・日銀短観、景況感改善続く
- ・原油価格の下落が止まる

##### 今週のマイナス材料

- ・九州北部を中心に豪雨被害
- ・北朝鮮が再びミサイル発射

今週の日経平均は、先週に続きこれまで上昇が続いた好業績銘柄に下落が目立ち利益確定圧力が感じられる一方、これも先週と同様にこれまで出遅れが目立っていた自動車株や金融株が買われる局面があったが、週後半には銀行株が下落に転じるなど株価上昇の持続力を感じにくい印象。再び2万円割れで引けた。

為替1ドル113円台の円安となり、欧米長期金利上昇に連動して国内長期金利も少し上昇し、影響を受けやすい自動車株や金融株が上昇したものの、日経平均を押し上げるほどのインパクトはなく、結果として2万円割れとなっている。業種別でみると、不動産、小売、通信、医薬品、電力・ガス、食品、陸運、空運、電機など、ここ4～5月の決算発表での好業績を背景に株価上昇が長く続いた業種・銘柄に下落が目立つ。一方で、自動車、鉄・非鉄、金融、商社などが上昇しているが、下落した業種・銘柄の方が相対的に多く、日経平均全体としては下落圧力の方が少し大きかった印象。

### 来週以降の見通し

#### ★引き続き弱めながらボックス圏か

日経平均想定レンジ **19,500～20,200円**

##### 来週以降の注目材料

- ・米雇用統計
- ・米FRB：資産圧縮と次回利上げへの市場の期待値
- ・北朝鮮を始めとする地政学リスク動向

##### リスク要因

- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・米政権に関する懸念拡大リスク
- ・欧州発のマイナス情報リスク(政治、ギリシャ)
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、先週・今週と同様に、少し弱めながらも大きくは下がらない展開を予想する。

小売を中心とした2月期・5月期決算企業の決算発表が続いているが、会社計画通りの増益、しかも史上最高益を更新した企業でも、発表後の株価がさえない銘柄が多い印象。これは市場の期待値がもっと大幅な増益を期待していたことが背景にありそうだ。米国や中国の経済成長が安定して続き、国内経済も安定成長と言えそうだが、3～4月に想定していた状況をさらに上回る訳ではない。多くの業種で、既に織り込み済みの情報や期待値を上回る材料も見当たらない印象が強く、7月末から本格化する3月期決算企業の1Q決算でも「会社計画通りの増益」が主流となれば、利益確定売り圧力がさらに強まる可能性を秘めている。

一方、多くの企業の会社予想利益は「増益」である。国内統計でも日銀短観だけでなく、全産業活動指数、商業動態統計、日銀消費活動指数などがいずれも上向きになっている。そして秋以降に米FRBが利上げか資産圧縮に踏み切れれば、もう一段の円安と株高が期待できるかもしれない。こうした中では、株価が下落すると押し目買いニーズが出やすくなる。直近数ヶ月の上げ幅が大きかった銘柄は調整色が強まるかもしれないが、全体としては下がりにくい展開が続く可能性がありそうだ。

次頁にコラム「徒然なるままに」

## 徒然なるままに

以下の数字を見ていただきたい。

マクドナルド 2,884、ほっともっと 2,663、すき家 1,954、ガスト 1,360、モスバーガー 1,344、スターバックス 1,268、CoCo壱番屋 1,258、吉野家 1,199、ドトール 1,146、ケンタッキーフライドチキン 1,139、ミスタードーナツ 1,138、サーティワン 1,125、サイゼリヤ 1,045、ほっかほっか亭 998、松屋 940、丸亀製麺 784、ジョイフル 782、コメダ珈琲 753、餃子の王将 722、不二家 711、魚民 692、タリーズ 668、リンガーハット 644、コージーコーナー 624、やきとり大吉 618、牛角 615、ココス 579、鳥貴族 567、幸楽苑 559、ピザーラ 542

もうおわかりだろう。大手外食チェーンの店舗数である。6月15日時点で調べた数字なので、今日数えれば、少し違った数字になっているとは思いますが、大体の規模はイメージできるだろう。この数字を見て何を感じるだろうか。レストランもあれば、カウンター式のファーストフード、持ち帰りがメインなど、業態は様々だが、ある一定の法則があるような気はしないだろうか。マクドナルド、ほっともっと、すき家を別格とすると、多くの全国チェーンが「1000～1300」辺りが上限となっているように見える。吉野家やミスタードーナツ、ドトールなど数十年かけて店舗網を拡大してきたチェーンも、この10年くらいで一気に拡大したチェーンもいずれも1000～1300店あたりに、「全国展開の上限」が何となくありそうな気はしないだろうか。

ちなみに、ここには500店舗以上のチェーンを載せてある。他にもサンマルク、プロント、デニーズ、バーミヤン、日高屋、なか卯、庄や、ドミノピザ、ピザハット、スシローやくら寿司、銀だこなども多店舗展開しているが、いずれも500店舗以下である。養老乃瀧、村さ来、ロッテリアなど、昔は店舗数が多かったのに、いつの間にか減少してしまったチェーンもあるし、和民などのようにコンセプトを変えた兄弟ブランドのお店にリニューアルさせるパターンもある。しかし、単独ブランドではやはり、「500」と「1000～1300」あたりに「見えない壁」があるような気がする。全国に店舗展開している企業の成長性を見る上で、参考になるのではないかと思う。

## リスクおよび手数料等の説明

**株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。**

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です  
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定：7月14日(金) 17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号  
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会